

大津波などで国際救援シンポ

## 岡山からの活動報告

インド洋大津波で、県内のNGOなどの活動を紹介し、国際貢献に対する理解を深める「国際救援シンポジウム―岡山から世界へ」（県、公設国際貢献大学校主催）が十日、岡山国際交流センター（岡山市奉還町）で開かれた。スリランカのカルナティラカ・アムヌガマ特命全権大使が基調講演を行ったほか、国連

NGO「AMDA」の菅波茂代表や各国支部長らが、被災地での緊急支援活動を報告した。

県は昨年四月、全国で初めて「国際貢献推進条例」を制定。大津波では、岡山空港（岡山市日応寺）に備蓄していたタオルケットやシユラフ

（寝袋）などの救援物資を公設国際貢献大学校を通して被災地に送るな

通して被災地に送るな

ど、積極的な国際貢献を行っている。

講演でアムヌガマ氏は「スリランカを襲った大津波で、最大の支援国の一つが日本。非常事態に私たちを支援してください。皆様に心から感謝する」と述べた。岡山ユネスコ協会やユニセフ協会、県支部など、県内国際団体の取り組みも紹介された。